



議会  
だより

# ふな状大

No.161

27年/1



発行：山形県舟形町議会  
平成27年1月23日

秋葉神社

年頭の挨拶	2 P
10月臨時会・12月定例会概要	3 P
中学生議会	6 P
一般質問に5議員	8 P
町民の声	13 P
えがったなあ・編集後記	16 P



氏子のみなさん





町議会議長 信夫 正雄

### 「地方創生実現の年に」

明けましておめでと〜うございます。

新年を迎え、皆様のご健勝とご多幸をお祈り致します。昨年は12月に入り、衆議院選挙が慌ただしく行われ、降り始めた雪は新年になっても降りやまず、今年も豪雪になるの心配されるところです。

また、衆議院選挙は与党圧勝となりましたが「アベノミクス」の推進が今年こそ「地方創生」へと繋がることを願っております。

昨年、舟形町は町制施行60周年を迎え「縄文の女神」が山形県の500円硬貨に刻印され、全国で限定発行されるなど、明るい出来事が町の10大ニュースとなりました。

しかし、一方では、舟形町を含め地方での大幅な人口減少が見込まれており、若者が定住しやすい生活機能の強化を進めるため、最上8市町村の益々の連携が必要と考えられます。

舟形町議会も「議会活性化特別委員会」において、改めて議員自身が自らを律すると共に、より開かれた議会を目指して「議会基本条例」の制定に向け検討を重ねていくところです。

皆様のご理解とご指導を賜りますようお願い致します。

「未」年の縁起話の一例に「群れをなす羊は家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らすことを意味する」と記されております。

今年が皆様にとって穏やかな年になりますようにご祈念申し上げ、年頭のあいさつと致します。

議長	信夫 正雄
副議長	加藤 憲彦
議員	八 鋏 太
議員	叶内 富夫
議員	野尻 益夫
議員	大場 清之
議員	佐藤 広幸
議員	斎藤 好彦
議員	奥山 謙三
議員	佐藤 勇
事務局長	高橋 明彦
事務局	大場 由美子

## 第4回臨時会 10月24日 12月定例会 3日～5日

### ふるさと納税の増加

# 元気、舟形ふるさと応援基金積立金

## 4850万円

12月定例会は、3日から5日までの会期で開催され、5人の一般質問に続き、一般会計・特別会計補正予算等、全議案を原案どおり賛成多数で可決しました。

### 主な事業（26年度補正予算）

- ・駐在所・定住促進住宅用地購入費……………2395万円  
(旧JASTAスタンド隣接地)
- ・財政調整基金積立金……………4000万円  
(年度間の不均衡を調整するために積み立てる基金)
- ・障がい福祉サービス給付扶助費……………809万円
- ・鮎中間育成施設用地購入費……………253万円
- ・町道消雪道路改修工事費(堀内地区)……………211万円

### 審議された議案

#### 第4回臨時会

○26年度一般会計補正予算

#### 12月定例会

○26年度一般会計、特別会計補正予算

○町議会委員会条例の一部を改正

○町一般職員・特別職員の給与の特例に関する条例の一部を改正(引き上げ)

○町教育長の勤務に関する条例の一部を改正(引き上げ)



### 議会活性化に向けて

舟形町議会活性化特別委員会は、議会の活性化を図るため、議会改革についての諸課題の調査・検討を重ねてきました。

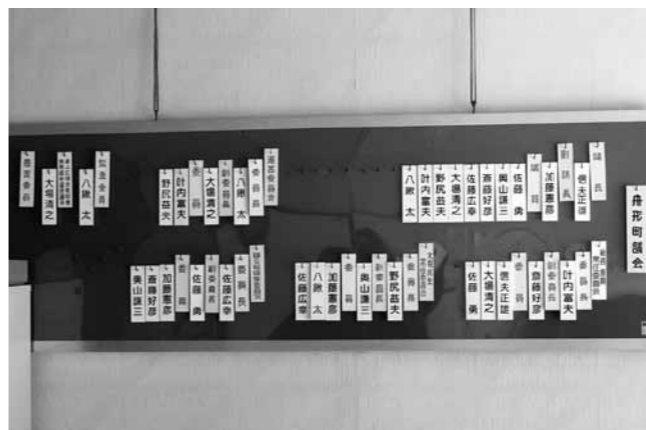
従来の2常任委員会制から3常任委員会制に移行し、常任委員会の調査権と審査権の拡充のため12月定例会で次のように提案し全会一致で可決しました。

- 総務振興常任委員会「5人」を「7人」に
- 文教民生常任委員会「5人」を「7人」に
- 議会広報常任委員会「5人」を「6人」に

(今までは特別委員会)

これにより、1人2つの常任委員会の委員となることとなります。

なお、この条例は、平成27年5月1日から施行されます。



現在の議会構成

### 米価下落対応策を町に提言

農家の経営意欲を喚起するためにも、米価下落対応策を、早急に講じられるよう町に対し次のように提言しました。

#### 米価下落対策等に関する提言書

舟形町の農業は、地域経済を支える基幹産業であり、中でも稲作は我が国の食料の安定供給に大きく寄与し、町の農業産出額の6割以上を占める主要作物である。

このたびの概算金支払い状況は、再生産に必要な採算ラインを割る水準となっており、このような状況が続くこととなれば、ナラシ対策の発動やコスト削減に努力したとしても農業経営は立ち行かなくなり、営農意欲の減退、離農、耕作放棄地の増大、人口減少、地域コミュニティの崩壊を招き、さらには国土保全、水源涵養、景観形成、文化の伝承など多面的機能の維持も困難となるものと大いに危惧している。

舟形町は、国に対し舟形町議会と舟形町農業委員会との3者連名で「米価下落に対する経営安定対策等の対応について」の要求書の提出や、県並びにJA等金融機関と連携した米価下落緊急資金制度の創設等の米価下落対策を進めているが、農家の経営意欲を喚起するまでには至っていない。

については、具体的施策として農業者が営農意欲を失うことなく、持続的に稲作経営に取り組めるよう、舟形町独自の稲作農家支援策を講じられるよう議会の総意として提言する。

平成26年12月5日

舟形町議会議長 信夫 正雄

舟形町長 奥山 知雄 殿



出荷を待つ米

## 質 答 応 疑

### 12月定例会

#### 平成26年度一般会計補正予算

**議員** 新築中の定住促進住宅の入居公募の時期と方法は。

**地域整備課長** 駐在所勤務者の入居を優先に考えており、県の動向が決まりしだい、公募方法を決定したいと考えています。



定住促進住宅建設予定地

**議員** 事業収入200万円の内容は。

**地域整備課長** 当初予算に対し水道使用料の増加が見込まれる分です。

#### (公共下水道事業)

**議員** 浄化センターの修繕料が高額であるが、突発的なものか。

**地域整備課長** 今回の修繕は突発的なものです。県の指導もあり、今後は整備計画に基づき対応したいと思えます。

#### (簡易水道事業)

**議員** 水産振興基盤整備事業の用地購入費の内容は。

**産業振興課長** 鮎の中間育成施設の水槽増設に伴う用地購入です。



舟形浄化センター

#### (国民健康保険条例)

**議員** 産科医療保障制度に加入していない医療機関での出産でも、出産一時金は全額受けられるのか。

**税務福祉課長** 県内の産科医療機関においては、すべて保証制度に加入しており、出産一時金42万円全額受けられます。



# 第5回中学生議会

平成26年10月29日第5回中学生議会が役場議場に開催されました。中学生の意見をまちづくりに反映する場として、また、地方自治に町議会が果たす役割を学び、この体験を通じてまちづくりに参加してもらう目的で開催しています。参加者は舟形中学校3年生全員と町長はじめ町関係者。11人の代表者が議員となり、立派にそれぞれの役割を果たしてくれました。



竹屋 翼 議長

## 政策提言

「多目的屋内運動場の建設を」



6番 伊藤 祥江 議員

冬期間も他市町村に行くことなく、町内で活動できるような人工芝の屋内練習場の建設を希望します。日中は高齢者の運動施設、夕方からは有効利用が見込まれます。他市町村への貸し出しも行うことで舟形町への交流人口が増加し、経済発展につながるものと思います。

提案理由

1番 村上 優花 議員



**質問** 町民グラウンドを人工芝の多目的運動場にしてはどうですか。

**町長** 町民グラウンドを人工芝にする場合、面積が1万㎡ありますので概算で7千万円かかります。この費用に対してどれほどの効果があるのかを検討した上で、計画的に舟形小学校、ほほえみ保育園、町民グラウンドの一体化の整備を検討したいと思っています。

3番 大場 聖真 議員



**質問** 少子高齢化と過疎化の対策にどのように取り組んでいきますか。

**町長** 今年度から、最上地域の市町村が一体となって新庄中核工業団地への企業誘致を促進し、周辺町村から勤めやすいようにする雇用促進奨励金制度も新たに設けて努力しています。また、高齢者を対象とした人間ドックや総合検診等の検診助奨や、インフルエンザ予防接種や肺炎球菌ワクチン接種の費用に対する一部助成を行い、疾病の重症化を防ぐ取り組みをしています。

2番 小國 龍人 議員



**質問** 縄文の女神を、今後どんな方法でPRしていきますか。

**町長** 今後、西ノ前遺跡とその周辺11,835平方メートルを「縄文の女神記念公園」として、堅穴式住居を配置した住居エリアや遺跡エリア、それらを散策する遊歩道、ピオトープや駐車場を整備してPRしていきます。また、ラジオドラマ化や絵本に活用出来ないか検討していく予定です。

4番 岡崎 佳林 議員



**質問** 町の特産品であるマッシュルーム、鮎、一ツなどの特産品の消費拡大に向けた取り組みは。

**町長** 町の農産物の生産拡大を図るため、国や県の支援事業の導入指導や、町単独支援では農業再生対策事業補助金制度等を設けており、舟形ブランドの確立に努めています。さらに、都市との交流事業において舟形町の米や野菜の農産物を販売するシステムを確立し、取り組みの拡大を図っています。

5番 齊藤 未濤 議員



**質問** 若あゆ温泉の老朽化が目立ち、露天風呂のプライバシーの確保や、お湯が熱すぎる等の課題があるようですが、改修計画はありますか。

**町長** 露天風呂のプライバシーの確保はたいへん重要な事項ですので、現状をしっかりと調査し改善したいと思っています。風呂の温度管理は、季節の変化に応じてこまめな温度設定をしていますが、さらにお客様の声を聞きながら対応したいと思っています。

8番 宮崎 樹 議員



**質問** 中学校の耐震化工事をしなくても大丈夫ですか。

**町長** 中学校は昭和58年に完成し、今年で31年目を迎えています。鉄筋コンクリートの法定耐用年数は47年になっており、あと16年は大丈夫な建物です。また、耐震改修促進法でも昭和56年5月までに着工した建物が改修の対象となっており、中学校は耐震化工事の対象にはなっていない建物です。

10番 加藤 純佳 議員



**質問** 旧富長、長沢、堀内小学校の廃校利用計画はありますか。

**町長** 旧富長小学校は、農林水産物処理加工施設を整備し、町の特産物である「鮎」や農産物の加工品やお菓子等を製造し、高級感ある製品を広く販売していきたいと考えています。旧長沢小学校は、無償貸付制度などの支援策を設け、施設を利用する企業等を町のホームページで募集しています。旧堀内小学校は、平成28年度に、特別養護老人ホームを建設整備する計画を進めています。

7番 八織 ほか 議員



**質問** 高齢者へ、町独自に行なっている支援を教えてください。

**町長** 高齢者を対象として、初乗り料金分のタクシー券を24枚交付し、外に出かける活動を支援しています。さらに、インフルエンザ予防接種や肺炎球菌ワクチン接種の助成事業で、接種料金の一部助成を行なっています。また、「緊急通報システム事業」や「ふれあい宅配弁当事業」、「ふれあいヤクルト事業」があります。

9番 佐藤 拓海 議員



**質問** 小国川に穴あきダムが建設される予定ですが、生態系や環境にどんな影響がありますか。

**町長** これまで、河川環境や魚類の育成に関しての影響について各種委員会等で50回を超える検討を重ねてきました。その結果、流水型ダム建設による「穴つまり」や「活水」に対して万全な対策を取ることにより、清流小国川に対しての影響は少ないとされています。







加藤 憲彦 議員

# 広域消防体制について

## どのように取り組んでいくのかが課題



消防本部

中高齢者19件が逃げ遅れ、一酸化炭素中毒が8件、起きています。以前、3人体制では建物の中にも入れず、4人体制に増員する考えはないのかを質問しました。広域理事会で検討するということでしたが、どのように進んでいますか。

平成20年度当初は133名の消防職員体制でしたが、2分署の統合に当たり20名の削減を目指し、113名の体制とすることとなりました。しかし、平成21年度からの団塊の世代による大量退職が始まり、22年度から十数人ずつの退職と新規採用を行なっており、新採については、消防学校への入校が始まったことに伴い、9か月間十数人の新採職員分がない状況となりました。加えて、ドクターヘリの問題も新たに加わり、4名体制が話題となりました。しかし、4人体制となると新たに20名の消防職員が必要となるようです。新採職員の研修期間中における消防退職職員の活用や平日の役場職員対応、実際のドクターヘリの対応日数の問題などが議論されました。各市町村の財政的な理由もあり、24年11月の総務課長会議を経て、同月の理事会において113名の職員体制を27年度には119名体制とすることとし、支署からの出向体制をなくすることを可能とする体制で行われています。

今後、ますます人口減少社会へと進んでいくわけですが、それに対して各市町村や最上広域がどのように取り組んでいくのかが課題であると思います。



防災訓練 (太折)

【質問】平成24年9月議会で質問した、広域消防体制について伺います。昨年12月議員立法により、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律が成立され、少しずつ消防に対する考えが変わってきました。県内の火災による死者は年々増え、25年度26件

【町長】健康づくりを推進するための横断的組織の立ち上げについては、健康教育や健康管理、体力づくりなどの一体的な取り組みを行うことから、平成9年度に舟形町健康づくり協議会を設置していますが、形式的な一面になっていることの認識をしているため、新たな組織化の方向ではなく、この委員会の見直しを含めた中で地域の実情に合った健康づくり事業展開

【町長】平成20年度当初は133名の消防職員体制でしたが、2分署の統合に当たり20名の削減を目指し、113名の体制とすることとなりました。しかし、平成21年度からの団塊の世代による大量退職が始まり、22年度から十数人ずつの退職と新規採用を行なっており、新採については、消防学校への入校が始まったことに伴い、9か月間十数人の新採職員分がない状況となりました。加えて、ドクターヘリの問題も新たに加わり、4名体制が話題となりました。しかし、4人体制となると新たに20名の消防職員が必要となるようです。新採職員の研修期間中における消防退職職員の活用や平日の役場職員対応、実際のドクターヘリの対応日数の問題などが議論されました。各市町村の財政的な理由もあり、24年11月の総務課長会議を経て、同月の理事会において113名の職員体制を27年度には119名体制とすることとし、支署からの出向体制をなくすることを可能とする体制で行われています。

※一般質問とは：定例会において、議員が町の施策の状況や方針などについて、報告、説明を求めたり質問・政策提言をすることです。



介護予防教室

【町長】健康づくりを推進するための横断的組織の立ち上げについては、健康教育や健康管理、体力づくりなどの一体的な取り組みを行うことから、平成9年度に舟形町健康づくり協議会を設置していますが、形式的な一面になっていることの認識をしているため、新たな組織化の方向ではなく、この委員会の見直しを含めた中で地域の実情に合った健康づくり事業展開

【町長】平成20年度当初は133名の消防職員体制でしたが、2分署の統合に当たり20名の削減を目指し、113名の体制とすることとなりました。しかし、平成21年度からの団塊の世代による大量退職が始まり、22年度から十数人ずつの退職と新規採用を行なっており、新採については、消防学校への入校が始まったことに伴い、9か月間十数人の新採職員分がない状況となりました。加えて、ドクターヘリの問題も新たに加わり、4名体制が話題となりました。しかし、4人体制となると新たに20名の消防職員が必要となるようです。新採職員の研修期間中における消防退職職員の活用や平日の役場職員対応、実際のドクターヘリの対応日数の問題などが議論されました。各市町村の財政的な理由もあり、24年11月の総務課長会議を経て、同月の理事会において113名の職員体制を27年度には119名体制とすることとし、支署からの出向体制をなくすることを可能とする体制で行われています。

【質問】地方創生が目指すものや、地方創生事業の内容をつぶさに勉強する機会が欲しいと考えています。最上広域圏事業の一環として開催することについて、奥山町長から提案していただきたいと考えます。

【町長】管内自治体が連携しての開催提案や、県による開催などについて要望していくとともに、参集範囲についても広く参加できるように学習会を提案したいと思えます。

### 地方創生を知る



出前健康教室



奥山 謙三 議員

# 健康寿命を延ばすための介護予防の充実を

## 推進母体の見直し強化する

【質問】健康寿命を延ばすためには、介護予防だけでなく、社会体育、地域づくりなどが絡んでいるので町全体で横断的組織を立ち上げる。さらに、健康増進の拠点施設として、トレーニングルーム等を設置し、

健康増進に寄与させる。各町内会に運動普及推進員を置き、健康づくりを地域の中で普及し、地域の健康づくりを通して地域づくりにも貢献できると思っています。これらについて町長の考えは。

【町長】健康づくりを推進するための横断的組織の立ち上げについては、健康教育や健康管理、体力づくりなどの一体的な取り組みを行うことから、平成9年度に舟形町健康づくり協議会を設置していますが、形式的な一面になっていることの認識をしているため、新たな組織化の方向ではなく、この委員会の見直しを含めた中で地域の実情に合った健康づくり事業展開

【町長】管内自治体が連携しての開催提案や、県による開催などについて要望していくとともに、参集範囲についても広く参加できるように学習会を提案したいと思えます。





佐藤 勇 議員

# 基幹産業の農業再生を

## 農業者の担い手確保が重要な課題



不安を抱えながらの収穫作業

**質問** 人口減少、担い手の減少、高齢化、米価下落により、離農、耕作放棄地が増え、農業、集落の衰退が危惧される。今後どのようにして農業を再生し、活性化につなげていくのか、次のことを質問します。①結婚サポートセンターで縁結び隊（仲人）を立ち上げ、8市町村、県と連携してサ

ポート。②合理化、効率化を推進し集落営農、法人化、地域に調和した基盤を整備するための「担い手のリーダー」を育成。③農地集積での労働力不足を補うため、高齢者が現役で働ける環境づくり。④介護認定が受けられない高齢者が自家野菜を作り、共同で生活ができる施設の整備。

**町長** 縁結び隊は、現在15名の方に委嘱しており、独身男女の会員同士を1対1で引き合わせ、結婚への結び付けを目指したいと考えています。最上地区では、真室川町（結婚支援員）だけであり、今後、情報交換会などを検討します。

基幹産業である農業を推進していくためには、農業者の担い手確保がたいへん重要な課題です。

また、今後の農業経営の健全化を図るためには、集落営農や農業法人の取り組みに向けて、組織の立ち上げや運営計画の支援指導に取り組んでいきたいと思っております。また、農業基盤整備については、地域の立地条件を勘案しながら計画策定に取り組んでいます。町では「活気あふれる農業推進機構」で定年帰農の推進にも取り組み、高齢者でも担える作業を整備しており、就農について意欲ある方々にオープンに提供できる体制づくりも積極的に進めたいと思っております。



コンビニ建設予定地（JAスタンド跡地）

### コンビニ誘致での町の考えは

**質問** ファミリーマートでは、社会貢献、生活支援も考えているようですが、今後、町ではどのようなかわりをもって支援していくのか。町民の方をオーナーとして公募する考えは。また、隣接する定住促進住宅への入居者の公募は。

**町長** 定住促進の公募住宅の公募方法は、庁舎掲示板と町広報紙等に掲載し周知します。ファミリ

ーマートでは、町民の方々に定期的に広報すること、町のコミュニティの場所としての位置づけや、移動販売への支援があれば、地域も回り、配食サービスや生活物品の販売など、独居老人や高齢者世帯への対応、地域の農産物や加工品を販売する産直スペースも創出したいとのことでした。町は、ファミリーマートを誘致するため、行政として公平感を保ちつつ、できる限りの支援をしていきたいと考えています。



斎藤 好彦 議員

# 道の駅整備による特産品の発信を

## 整備要件等について調査したい



道の駅（ねまる）

**質問** 東北中央自動車道の尾花沢新庄道路が全線開通し、物流機能の強化による企業誘致、観光振興の期待が高まってきております。高速交通網の利用者を引き留め、地域経済の発展に結びつけるために最上8市町村で「道の駅」

の整備を考えてみてはどうでしょうか。特産品の販売だけではなく、各市町村の観光情報の発信基地としての機能を持たせ、最上地域が一体となり、地域経済の発展、交流人口の拡大を目指すべきであると思っております。町長の考えを伺います。

**町長** 尾花沢新庄道路の全線がこの度開通し、観光、交流人口の拡大が期待され、ブランド化された高品質の二つをはじめ、最上地域各市町村で力を入れている農産物や特産品の販売、それらを活用した「食」の提供など最上地域の特性を活かした「道の駅」整備事業は、地域振興策として有効と思われれますが、経営的に自立できるかどうか、最

上8市町村にある既存の農産物直売所等との関連性などについて研究する必要があると思っております。また、「道の駅」の施設要件としての24時間無料利用できる十分な容量の駐車場とトイレをはじめ各種施設を備える土地の確保、施設整備に活用する交付金や補助金等の財源などについても、調査検討してまいりたいと思っております。

**質問** 期日前投票が定着してきたこと、立会人の心身のなご苦労、職員の休日出勤対応、時間外手当等を考慮し、投票終了時刻の短縮を検討すべきであると考えます。選挙管理委員長の考えを伺います。

### 選挙の投票時間短縮を

**選挙管理委員長** 平成12年度からは市町村選管の判断で投票時間の短縮が可能となっており、町選挙管理委員会でも検討してまいりましたが、県選管から、法に抵触するとの判断が示された経緯があります。この度、新庄市選管が、1時間の繰上げを来年4月の市議選か

ら実施するとの報道がありました。財政経費節減や立会人の健康等に対し、ようやく県選管でも認めるようになったのではないかと考えております。このような状況を踏まえ、町選挙管理委員会でも4月の統一地方選に向けて取り組んでまいりたいと考えております。



定着した期日前投票





八鍬 太 議員

# 定住自立圏構想への対応は

## 将来像を見据え実現に向け推進

**【質問】** 舟形町は、町制施行60周年を迎えました。町の将来像を考えるに、決して楽観できる現状ではないことは町長も認識されていることと思えます。

近隣町村が協力し合い生き残りをかけて健全な財政の確保対策をはじめ、効率的で質の高い行政サ

ービスを継続的に提供できる体制整備をできるだけ早く、確立することを望みたいところです。

4年前、「最上広域連携を問う」と題して一般質問しましたが、その後、首長をはじめ各自治体間でのような話し合いがもたれましたか。また、新たに「人口減少、少子高齢化を見据えた広域連

合のあり方」が議論され、定住自立圏構想が推進されていますが、ぜひ前向きな取り組みを期待するところです。

最上地方の進捗状況と取り組みに対する町長の考えを伺います。



総務省のホームページより



議論する職員（最上地域政策研究所）

りのために、最上管内8市町村が相互に連携、協力していくことはたいへん重要です。広域連携推進協議会では、「行政の効率化」、「地域づくり」、「コミュニティの醸成」について議論し、地域総合力の向上を図ってきました。主な取り組み例として、独身男女の結婚サポート、県立病院の機能強化の要望、県と共同して、最上

地域を調査研究し、政策推進と職員の政策能力向上を目的に、「最上地域政策研究所」を設立しました。農作物の最上ブランドの確立や企業誘致対策について議論し、大きな成果をもたらしています。こうした現状の中で、「定住自立圏構想」は新庄最上地域の広域連携を推進する上で欠くことの

できない取り組みです。中心市との協定によって「定住自立圏全体の活性化を通じて人口定住を図る」という観点から、1つ目の「生活機能の強化」の分野では、医療・福祉の充実と企業誘致など、2つ目の「結びつきやネットワークの強化」の分野では、地域公共交通や結婚支援、空き家対

策など、3つ目の「圏域マネジメント能力の強化」の分野では、有望な人材確保と職員合同研修の充実などについて、広域連携により取り組むことが重要な政策であると考えます。

定住自立圏の将来像をしっかりと見据え、実現に向けて推進に取り組んでいきたいと考えます。

# 声 声

皆さんの声を掲載する欄です。議会に対するご意見・ご要望等、どうぞお気軽にお寄せくださるようお待ちしております。

私には、3人の子供がいます。「子育てするなら舟形町」妊婦健診をはじめ、子育て医療の拡充と、年々充実し、子育てをする親の一人として本当に有り難く感じます。

子供たちは絵本が大好きで、保育園や学校での読み聞かせを楽しみにしています。毎年、舟形町が開催している絵本作家の講演会はもちろんのこと、整備された小・中学校の図書室や中央公民館の図書室そして、学校と地域の皆さんの協力で毎週のように行われている舟形小学校と舟形中学校での絵本の読み聞かせにも感謝申し上げます。

「子供は町の宝」地域の皆さんや舟形町全体が子供を大切にしてくれているのが感じられます。

町や地域の皆さんに大切に育てられた子供たちが将来、一人でも多く舟形町に戻ってこられるよう、議会の皆様には舟形町の発展に、これまで以上の取り組みを期待いたします。



木島 真紀さん (洲 崎)

## 請 願

12月定例会で審査した請願は次のとおりです。

●農協改革に関する意見書の提出についての請願 **採 択**

請願者 新庄もがみ農業協同組合  
代表理事組合長 安 食 賢 一

## 意見書

### 農協改革に関する意見書

JAGグループは、持続可能な農業と豊かできらしやすい地域社会の実現を目指している。今後とも総合事業を展開することにより、農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に取り組むことが、JAGグループが目指す基本方向であり、真に農家組合員の所得向上と地域の活性化につながるよう、政府に対し強く要望する。

12月定例会で採択された意見書を政府関係機関へ提出しました。

## 定住自立圏構想を学ぶ

### 最上地方町村議会議員研修会

10月17日

「最上地方における広域連携について」と題して、最上総合支庁地域振興課長の井上宏彦氏から情報提供を受けました。

定住自立圏全体の活性化を通じて人口定住を図るといふ観点から、連携する具体的な3つの事項として、生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント能力の強化があり、財政支援措置として中心市には8500万円、近隣市町村には1500万円の支援が受けられるとの説明がありました。

また、新庄市が中心市宣言ができる期限は平成27年9月30日となっており、今後、議論を加速させていく必要があると感じました。



真室川町 遊学館



# 農協改革とTPPを学ぶ

## 県議長会議員研修(10月20日)

山形国際交流プラザで町村議員研修会が開催され、東京大学教授の鈴木宣弘氏から「農協改革の現状とこれからの課題」と題して、「今だけ、金だけ、自分だけ」では持続できる強い農業経営も地域の発展も、国民の命もまもることができない。自分たちの地域の職と暮らしを守り、豊かな日本の地域社会を次世代に引き継ぐために、今こそ奮闘すべきであると、食と農と地域の未来のための講演をいただきました。

また、帝京大学教授の黒崎誠氏からは「これからの政治・経済のゆくえ」と題して先進技術王国である日本の経済は必ず復活していく。観光・農業を利用した地域再生、TPP問題などについて講演をいただきました、たいへん有意義な研修会でした。



議員研修会(左上は講師の鈴木氏)

## (2) 岩手県盛岡市 「農事組合法人…とたん」

平成18年に都南地域営農組合を設立し、翌年から実施された品目横断的経営安定対策に加入し、本格的な集落営農組織として活動を始めた。平成23年には米粉用米の取り組みを開始し、製麺所との共同開発、生産に着手している。

その後、農家の高齢化、後継者不足など地域農業が抱える諸課題の解決を図り、地域農業を次世代に引き継ぐ役割を果たしたいという経営理念のもと、平成25年に「農事組合法人…とたん」を設立した。

当法人の経営概要は、組合員944名、経営面積は水稲(主食用)876ha、(米粉用)37ha、小麦38ha、大豆6haで県内でもトップクラスの大規模経営組織である。組合員の米販売代金については、農事組合法人の口座に入金され、各個人には作業料金(春・秋)と管理作業料金が支払われる仕組みになっている。

また、当法人では営農活動のほかに「生活活動」と称して、高齢者対象事業や次世代育成事業として学童農園活動、小学校の出前授業などにも



組合長の説明を受ける(とたん)



議会広報研修会(東京都)

# 紙面づくりを勉強しました

## 議会広報研修会

平成26年10月21日〜22日に東京都のシェーンバツハ・サボイで開催された町村議会広報研修会に参加し、2日間にわたり4名の講師による研修を受けました。

初日は、「伝える広報」から「伝わる広報」の大切さや紙面のデザイン、写真の撮り方などを研修し、2日目は、色々な町村の広報誌のクリニックを聞き、具体的な改善点について講義を受けました。

これからも、町民の皆さんの声に耳を傾け紙面づくりに生かしていきたいと思えます。

取り組んでおり、地域の環境、文化を継承し豊かな地域社会づくりを目指し活動している法人である。

舟形町でも農家の高齢化が進み農作業の委託希望者が増加し、当法人と同様な課題が山積しており、今後、本町で組織づくりを検討する場合、地域の実情を勘案し地域との十分な協議を重ね、地域住民の要望に沿った運営体制を構築する必要があると感じました。

# 介護先進地に学ぶ

## 文教民生常任委員会

1. 日時 平成26年11月6日〜7日
2. 研修内容・所感

### (1) 宮城県仙台市

「社団法人 東北福祉会 せんだんの杜」

**理念** 住み慣れた地域で、これまでの家族関係や近隣関係、友人関係を保ちながら生活が送れる支援のあり方を目指している。

**経営** 東北福祉大学の関連法人のひとつとして設立された社団法人東北福祉会は、大学が標榜する「これからの福祉のあり方」を世に問う実践施設として数多くの施設を運営している。

**所感** 社会福祉法人は数多くの運営が可能であることが理解できました。当町にも多様なニーズがあり、今後検討を行い実施できるような進めていくことが大切と感じました。

# 地域農業の現状を研修

## 総務振興常任委員会

1. 日時 平成26年11月5日〜6日
2. 目的 集落営農の取り組みについて
3. 調査内容

### (1) 岩手県奥州市「農事組合法人…原体ファーム」

当法人は、平成6年から実施した「県営担い手育成基盤整備事業」がきっかけであり、平成11年には機械の共同利用を図り、地域農業の受け皿になるための農業組織「原体営農組合」を設立した。その後、中山間地域直接支払制度を利用し、機械、施設の整備を行い、水田を中心とした農業経営を目指し、小作契約による農作業の受託を行うことを目的に集落72戸の参加で平成14年に農事組合法人が設立された。

平成17年には、米粉を利用した米パンの加工販売施設「夢の里工房はらたい」を開店させ、地域の方々の好評を得て経営も順調に推移しており、今後は、もち加工部門の製造・販売を本格化させたい考えであり、従業員の地域雇用にも貢献している。

組織の概要は、組合員73名、利用権設定農地47ha、農作業の受託農地22haで、水稲のほか大豆、アスパラ、ピーマン、ブルーベリーなども手掛けている。また、米・大豆の乾燥施設、米粉パン、ジャムなどの加工施設を管理している。

今後、本町での取り組みを検討する際、当法人の理念である「農地を守り生産性を向上させ、自然豊かな環境を守ること」を念頭におき、地域農業の受け皿としての組織づくりを考える必要があると感じました。



「せんだんの杜」での研修

### (2) 福島県福島市

「社団法人 ライフ・タイム・福島」

**理念** ・高齢者の自立支援  
・利用者主体のサービス及び利用者尊厳の介護

**特徴** 安全・安心・ほほえみの介護事業の中に、24時間訪問看護事業・夜間対応型訪問介護事業にテレビ電話を活用し、双方方向で安全・安心を高めている。  
食事宅配サービスも実施しており、弁当ではなく家庭の食卓を意識した食事の提供を行っている。

**所感** 介護事業の先進的な取り組みを実践している社会福祉法人です。在宅での介護支援が充実していました。当町でもニーズを把握しながら、24時間訪問看護事業・夜間対応型訪問介護事業について検討を進めることの必要性を感じました。





# シリーズ

舟形町に嫁いで来た、お嫁さんをご紹介します。

# えが ったなあ

シリーズ  
もてナイ



□どんなきょうか(で彼(ご主人)と知り合いましたか?  
昨年11月に放映された、もてナイ『舟形の花嫁・お見合い大作戦!』で知り合いました。

□舟形町に嫁いで来て、どんなイメージを持ちましたか?  
6月に嫁いで来ましたが、最初に感じた印象は町民の方々、ゆつたりのんびりしている、ということでした。

□舟形町の生活はどうですか?  
その、ゆつたりのんびりしている町民性が今では心地良く感じられます。近所の方々にも、とても親切にいただき、ありがたい毎日です。

□舟形町の良いところ、悪いところがありますか?  
良いところは、心がらかな町民性の中で、四季の移り変わりを感しながら人間らしい生活(ローライフ)が送れるところ。悪いところは、これもスローライフのひとつなのかもしれませんが、多少の不便さ、雪の多さ、でしょうか…?

□舟形町に望むことはありますか?  
町が力を入れている婚活事業が進むことで、今後若い世代の夫婦がどんどん増えていって、町が活性化することを望んでいます。のちに、そういう人達が住みやすい住宅を増やしていただくと助かると思います。(私は両親と同居して、とっぴり甘えていますので、とても助かっています)笑

舟形町に嫁いで来たお嫁さんです。  
今回は、さいたま市から舟形に嫁いで来た佐藤真由美(旧姓濱中)さんです。  
皆さんよろしくお願いします。

## お願い

「えがったなあ」に出てみませんか。  
対象者は町外から嫁いで来たお嫁さん・お婿さんです。

(連絡先)  
舟形町役場議会事務局  
TEL 0233-32-2111(代)

## 表紙の説明

秋葉神社は福寿野の守り神として、これまでの発展の歴史が刻み込まれています。

写真の石柱大鳥居は、福寿野開村150周年記念に、西堀の鈴木勝治氏より寄贈されたものです。

石柱大鳥居に飾るしめ縄は、秋葉神社氏子らにより毎年師走に作られ、新年を迎える前に張り替えられています。

下の写真は完成を祝しての集合写真です。  
平成27年が皆様にとりまして素晴らしい年であることを願って参拝しました。

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。皆様にとりまして素晴らしい年でありますように願っています。

今年は、アベノミクスの景気拡大の機運を確かなものにするとともに、大企業や富裕層だけでなく、地方の事業者にも一般生活者の家計にも等しく景気回復の実感が行き渡る年にしたいものです。

1月5日に町豪雪対策本部が設置されました、さらに大雪が予想されますが地域支え合い除排雪活動により助け合って乗り越えていきましょう。今年も議会だよりを宜しくお願いします。

(奥山 謙三記)

## 次回の定例会は

3月5日(木)~12日(木)

までの予定です。

皆様の傍聴をお待ちしています。

お問い合わせ先  
議会事務局 ☎32-2111

## 発行責任者

議長 信夫 正雄  
議会広報特別委員会  
委員長 佐藤 広幸  
副委員長 佐藤 勇  
委員 加藤 憲彦  
委員 斎藤 好彦  
委員 奥山 謙三